

事業所における自己評価結果（公表）

令和7年度

		チェック項目	はい	いいえ	未回答	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	①	利用定員が指導訓練等のスペースとの関係で適切である	9 100%			・パーテーション扉で仕切って使うことが可能
	②	職員の配置数は適切である	9 100%			・その日の子どもの人数に応じて職員配置を行っている
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	9 100%			・手すりが廊下等にあると良いと思う ・個々の特性に合わせ視覚で伝えられるようイラストや写真を貼って分かりやすく配慮している
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9 100%			・毎朝、職員全員で掃除をしている ・活動によって静養室など少し狭い部屋を使用することで集中しやすい環境を整えている
	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に広く職員が参画している	9 100%			・職員会議など全員が参加する機会に行なっている
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている。	9 100%			・評価表（保護者向け）を閲覧することにより情報共有をしている
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8 88.9%		1 11.1%	・玄関に置き、いつでも誰でも見ることができる
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	9 100%			

	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9 100%			・法人研修、園内研修を定期的に行っている ・外部研修を受講している ・各職員に受けたい研修の希望を聞くなどして研修に対して前向きな姿勢がある
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9 100%			・モニタリングを行い家庭からの情報や希望を基に個人支援計画を立てている
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7 77.8%	1 11.1%	1 11.1%	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9 100%			・送迎時に子どもの姿を共有するようにしている
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9 100%			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	9 100%			・週1回会議をもち、活動プログラムを決定している
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9 100%			・季節の行事や調理保育を取り入れている ・振り返りを行いながら活動を決めている
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	9 100%			
	⑰	支援開始前には必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9 100%			・毎朝支援内容や活動の流れを職員間で打ち合わせをしている ・毎朝朝礼を行い個別支援や全体の活動プログラムの確認を行い、職員間で情報共有や確認をしている

	⑮	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	9 100%			・その日の振り返りを記録ファイルに記入し、職員間で共有できるようにしている ・ヒヤリハット会議を毎日行っている ・行事後には振り返りし気づいた点を共有している
	⑯	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9 100%			・毎日記録し次の支援に繋げている ・各担当が記録表を毎日作成し、支援の検証、改善に繋げている
	⑰	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9 100%			
	⑱	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい物が参画している	9 100%			・今は主に児発管が参加している ・基本的には管理者及び児発管が出席している ・担当制をとっているため各担当が出席する機会があっても良い
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した胃炎を行っている	9 100%		1	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	9 100%			
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	7 77.8%	1 11.1%	1 11.1%	・直接連絡はとっていない
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9 100%			・連携を取っているところもあるが取れていないところもあり、全てにおいてはできていない
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9 100%			・小金井支援学校とは引継ぎ会があり、支援内容等の情報共有を行っている。他は行っていない
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7 77.8%	2 22.2%		・他の児童発達支援事業所が主催する研修に参加している ・見学などはしているが継続的な連携(助言、研修)には至っていない

	⑳	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や障害のない子どもと活動する機会がある	9 100%			・同じ法人の保育園の5歳児との交流会を年2回行っている
	㉑	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子ども子育て会議等へ積極的に参加している	8 88.9%	1 11.1%		・小平市の「こどもの発達を支援する連絡会」に毎回参加している
	㉒	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9 100%			・送迎時に子どもの姿等を伝え合い、共通理解ができるようにしている
	㉓	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）の支援を行っている	2 22.2%	7 77.8%		・今後、小平市で行なう「ペアレントトレーニング」の研修に参加する予定
	㉔	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9 100%			・契約時に説明をしている
	㉕	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9 100%			・保護者に確認していただき、署名、捺印をしてもらっている
	㉖	定期的に保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9 100%			・モニタリング時に聞いたり、送迎時にも保護者と話す機会をもっている
	㉗	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9 100%			・父母会は運動会や夏祭り等を行う中で、保護者間の交流を図っている ・行事を行う中で保護者同士の連携を図れる機会を作っている ・懇談会を実施予定

	③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備すると共に、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9 100%			
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動状況や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9 100%			・毎月のお便りや行事のお知らせを配信している ・Oliveだよりを月1回配信している
	③⑧	個人情報の取り扱いに十分注意している	9 100%			
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9 100%			・個々の状況や様子を見て対応をするようにしている
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4 44.4%	5 55.6%		・今後の課題
	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9 100%			・マニュアルを作成し、研修を行っている
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9 100%			・地震、火災の避難訓練を毎月行っている
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	9 100%			・事前に処方箋をもらっている ・情報の聞き取りをしている ・職員会議で全員に周知している
	④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9 100%			・ご家庭に事前に給食の献立を渡し確認してもらっている ・トレーや布巾の色を変えたり、食べる場所に配慮している
	④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9 100%			・毎日ヒヤリハットを出し合い、解決策まで共有している
	④⑯	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9 100%			
	④⑰	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6 66.7%	2 22.2%	1 11.1%	・該当者はいない ・管理者と相談していく